

若冲と京の画家たち

主催：静岡県立美術館

会期：平成17年2月5日(土)～3月13日(日)

休館日：毎週月曜日

※芸術文化振興基金助成事業

長らく日本の政治・文化の中心として栄えた京都は、伝統を守り伝える場であると共に、新しい文化を創造し発信する場としても大きな役割を果たしてきた。その魅力は、京が育んだ多くの画家たちの作品から知ることができよう。例えば、近年ますます注目を集めるようになった伊藤若冲。個性的な画風で知られる彼もまた、京の町が慈しみ花開かせた希有な才能の一つである。裕福な商家の跡取りに生まれながらいつしか絵にのめり込み、極めて独創的な画境に到った若冲は、現代の私たちをも驚かせる数々の作品を残し、江戸時代絵画の豊かさを強烈にアピールしている。

この展覧会は、江戸時代から近代まで、若冲はじめ京の都で活躍した画家たちの多彩な作品を通して、今日に生き続ける千年の都・京の魅力を紹介したものである。館蔵品を中心に、所蔵家の方から特別にご出品いただいた作品を加えて構成した。

第1章 若冲と同時代の絵師たち－18世紀の充実

館蔵品の中でも特に注目度の高い《樹花鳥獸図屏風》など若冲作品8点を中心に、池大雅、円山応挙、長澤蘆雪、呉春、狩野永良など18世紀に活躍した代表的絵師の作品を展示。

第2章 江戸後期の豊穡

百花繚乱の18世紀の後を受けた世代——円山応挙の流れを汲む人々、独自の画境に到った浦上玉堂・春琴父子、名古屋から出て京で活躍した中林竹洞、山本梅逸ら。

第3章 京の伝統画派

桃山以来の伝統をつなぐ京狩野、西本願寺の絵画制作に従事した徳力善雪、朝廷の御用を勤めた土佐派など、京都ならではの伝統画派たち。

第4章 京の近代

近代以降も脈々と受け継がれていく円山・四条派のほか、多彩な顔ぶれと作品により、今日につながる日本画の伝統を再確認する。富岡鉄斎、塩川文麟、竹内栖鳳、入江波光、秋野不矩など。

■カタログ

収蔵品図録として作成(主要刊行物p.42を参照)



▲ カタログ

■主な関連記事

朝日新聞 「奇想」が江戸美術の顔に 若冲、又兵衛…
権威より自分の感性」(山盛英司氏)平成17年3月3日
新美術新聞 新美術時評「館藏品プラス・アルファで
充分 静岡県立美術館「若冲と京の画家たち」展」
(山下裕二氏)平成17年4月1日

■関連事業

特別講演会

「奇想を競う－18世紀の京画壇」

講師：辻 惟雄氏

(多摩美術大学名誉教授・東京大学名誉教授)

2月13日(日) 午後2時～ 講堂

学芸員が語るこの一点

「狩野永岳《三十六歌仙歌意図屏風》」

2月19日(土) 講師：山下善也(当館主任学芸員)

「池大雅《龍山勝会・蘭亭曲水図屏風》」

2月27日(日) 講師：飯田 真(当館主任学芸員)

「伊藤若冲《樹花鳥獸図屏風》」

3月5日(土) 講師：森 充代(当館学芸員)

いずれも午後2時～ 講座室・展示室

学芸員のフロアレクチャー

2月11日(金・祝)、3月13日(日)

いずれも午後2時～ 展示室

■出品目録

p.82掲載



▲ ポスター